



城下町内の街道はくねくねと

東海道 石山〜膳所

JR石山駅から膳所の城下町を通って大津へ。城下町内の街道は曲がりくねって見通しが悪く、方角がわからなくなる。敵の進攻を少しでも食い止めるための工夫らしい。湖岸道路沿いの喧噪とはうって変わって、静かな住宅街や昔ながらの商店街が続く道だ。

悲劇の武将の子孫は音楽家

JR石山駅から街道を少し外れ、盛越川沿いの今井兼平の墓へ詣った。兼平は木曾(源)義仲の乳兄弟として義仲に仕えた人物。義仲が源義経に追い落とされ、京都を逃れ、山科から近江へと敗走を続けたときも付きそい、義仲の討ち死を見届ける。その後、太刀を口に含み、馬から飛び降りて自害した悲劇の武将だ。謡曲「兼平」の主人公でもある。当初、墓は膳所近くの山中で朽ちていたが、合戦の悪夢に悩まされた膳所藩主が墓碑を建て、次代藩主が「諸人の参拝に便利なように」と東海道近くの現在の地に移したという。

墓碑にペットボトルの水を注ぎ、祈る男性に出会った。リコーダー奏者の迫田浩一さん(35)は甲賀郡甲西町在住。母方の先祖が今井兼平。昨年末に下関から滋賀に移り、ときどき墓参りに来ると言う。「ここに来ると心が安らぎます。墓前でリコーダーを吹くこともあります」と話す。迫田さんは広島で仏教系の高校音楽科を卒業したが、主なレパートリ



▲今井兼平の墓碑と迫田浩一さん